

未来技術等を活用した心が通う持続可能なまちづくり

私たちの生活を支える公共交通

第7次舞鶴市総合計画に基づき、まちづくりの方向性や市の取り組み施策・事業をお伝えする「市政の今」。今回は、公共交通の取り組みをお伝えします。



SDGs未来都市



路線バスを利用する親子（写真はコロナ前、子育てひろば ひまわり提供）

公共交通を取り巻く現状と課題

誰もが利用できる公共交通は、私たちの暮らしを支える移動手段として欠かせないものです。しかし、近年は人口減少による利用者の減少やマイカー利用の増加、交通事業者の乗務員の高齢化や担い手不足など、公共交通を取り巻く環境は大変厳しい状況にあります。

さらに、交通事業者はこのコロナ禍で、非常に厳しい経営状況の中、公共交通の維持に努めています。市も公共交通を維持するため、これまでから交通事業者に対し運行費などを補助していますが、利用者が減少する中で市の支援額は大きくなっていきます（表1）。

公共交通は、まちになくはならないものとする多くの皆さんが考えている一方で、日常の移動に公共交通を利用しないというねじれが生じています。利用することでまちにとって重要な公共交通の機能を維持するという改善に向け

た「流れ」を作り出していくことが非常に重要になります。

本市の公共交通網

公共交通の運行状況は、鉄道は、綾部方面にJR舞鶴線が、敦賀方面にJR小浜線が運行され、宮津方面には京都丹後鉄道宮舞線が運行されています。

バスは、京都交通㈱が、東西循環線や高浜線、大江線など11系統の路線バスと京都・大阪・神戸への高速バスを運行しています。

路線バスなどが通っていない7つの地域(岡田上、岡田中、青井、池内、西天浦、多門院、杉山・登尾)では、小・中学生の通学や高齢者の移動手段として、地域の協議会で運営する自主運行バスが運行されています。

また、複数のタクシー事業者が、鉄道やバスなどでカバーできない地域の移動を含めて、市内全域を地域公共交通機関としての役割を担い、運行してい

ます。公共交通を補完する新たな取り組み

利用者の減少や交通事業者の担い手不足という課題に直面し、この先公共交通の維持・確保が困難になることが予想されます。そこで、将来にわたって市民の移動の手段を確保するため、昨年度から新しい技術(スマホ)を活用した、共生型Maas(※)の実証実験に取り組んでいます。

実証実験は、オムロンソーシャルソリューションズ㈱(以下OSS)、日本交通㈱)とともに、OSSが開発したアプリ「meamol」を活用し、移動したい人と送迎可能な人をマッチングさせて、「住民同士の送迎」により目的地への移動を実現しようとするものです。今年度の実証実験期間は10〜12月の3か月間、対象地域は、高野地区を中心とした西地域(一帯)。アプリは、iPhoneでのみダウンロード可。住民同士の送迎のほか、まちの情報やバスの時刻表(東西循環線のみ)を確認することができます。

この実証実験は、地方都市の抱える交通課題の解決に向けた先進的な取り組みとして、全国からも注目されています。

公共交通を利用して守る

本市では将来にわたり誰もが安心して移動できる社会を目指し、今年3月に「舞鶴市地域公共交通計画」を策定しました。皆さんに公共交通を利用していただけるような施策を一緒に考えて、取り組んでいきたいと考えています。

公共交通は、みんなで乗り合うことで成立するサービスです。「本数が少ない」「運賃が高い」「乗りたい時間に走っていない」という意見もありますが、乗らない公共交通は減便・廃止されてしまいます。

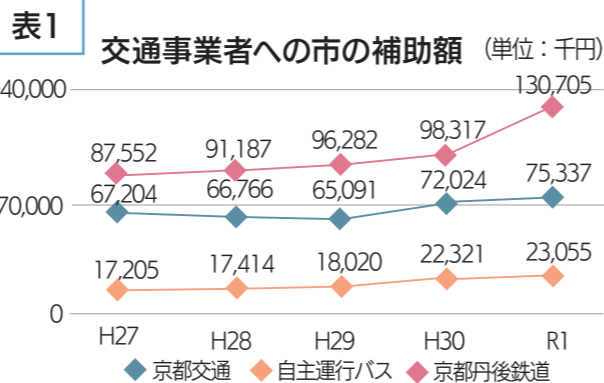
持続可能な社会を実現するには、交通弱者といわれる学生、高齢者等の移動手段を確保して地域の人の暮らしを支えること、また、観光やビジネスなどで本市を訪れる人の移動手段を確保して、地域の振興や活性化につなげることが重要です。

私たちの暮らしを支える公共交通を「公共交通を利用する」という行動で守っていきましょう。

※共生型Maas...あらゆる交通手段を活用し、最適化したうえで自家用車と同等か、それ以上の快適な移動サービスを提供するシステム

バスの乗り方

- 1 停留所で乗るバスの行き先表示を確認
2 乗る時(後ろから乗車)は整理券を取るのを忘れずに
3 車内ではマスクを付けて静かに携帯電話もマナーモードに
4 降りるバス停のアナウンスが流れたら降車ボタンを押す
5 降りる時は整理券と運賃表で運賃を確認して支払う
※車いすマークがあるバスは車いすでそのまま乗れます。運転手に知らせてください。



車を運転できなくなったら電車やバスに乗るという誤解

「車を運転できなくなったら電車やバスに乗る」と言われる人が多数おられます。東舞鶴駅と西舞鶴駅の往復約15kmを鉄道と車で比較すると、車移動の消費カロリーは鉄道の約半分です。つまり、車の運転が難しくなった体力で「車を運転できなくなったら電車やバスに乗る」ことはできないのです。また、免許証返納後も外出頻度が維持・増加した人は「車を運転しつつも電車やバスを使っていた人」というデータもあります。反対に、車だけを運転し続けていた人は「家族に毎回送迎を頼むのは気後れするし、かといって電車やバスの乗り方は分からないし…」となって外出が減少する傾向にあります。

日ごろから公共交通を利用することは、健康的な体づくりにもつながります。元気なうちに、そして子どもの時から電車やバスの移動にぜひチャレンジして、新しい景色を体験してください。

立命館大学衣笠総合研究機構 アート・リサーチセンター 客員協力研究員 公共交通アドバイザー 井上 学さん

